



昔のままに

久保 雅博

聞き手：春木悠佑 南礼那（私立鵬学園高等学校1年）

今の生活

僕の名前は久保雅博。出身は江泊町の日室。そこに40くらいまでおった。今はシルバー人材センターっていう、高齢者に生き甲斐とか、仕事とかね、そういったことを提供する仕事なんやけど、そこの理事長をやっとる。普段はシルバー人材センターの役員の仕事をしたり、少々の田んぼと焼き物をしたりして楽しんどる。

子供のころから

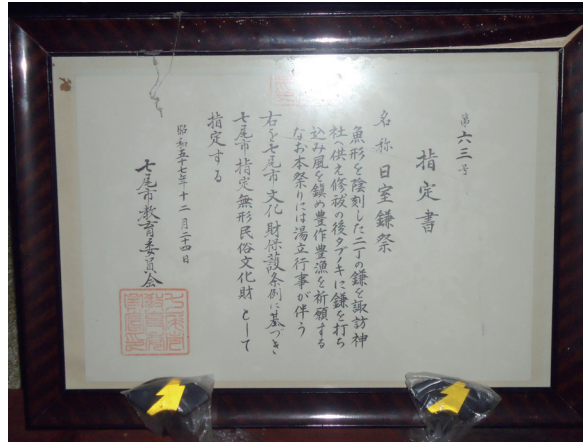
神事は子供のときからあってねえ、今も変わらないやり方で神事を行っとる。作十郎っちゅう、昔の長の家やね。そこの作十郎屋敷が焼けてしまおうて、そこにあった文献も焼失してしまっせん。だからね、ずっと口伝で伝えられてきてれん。

鎌打の鎌

タブノキに鎌を打ち付けるっていうのがあれん。鎌は雄鎌、雌鎌と2種類あれんけども、この2つを雌雄一対に打ち付ける。そうすることで、風鎮め、五穀豊穡をお祈りしとるというわけやね。この鎌は今は鉄鋼所で作っております。口にギザギザの歯があるほうが雄。ない方が雌鎌。この鎌をつくるのは大変なもんで、1度に数年分つくってもらげん。鎌をつくるためには道具がいれんて。他の鉄工所さんに頼むとすれば、道具からつくらんとだめねん。

神事の前に

神事の前、8月25日に山王町の山王神社に午前中行って、鎌をお祓いするんだけど、その前日に、大榎と、篠竹っちゅう細い竹やね。それとすみ祓いっちゅう四角い紙ねんけれども、それらを山王神社へ持って行って、お祓いしてもらう。



(左上) 雌鎌
(右上) 雄鎌
(左下) 諏訪神社
(右下) 無形文化財指定書

鎌に神様を宿すちゅうかね。そういう神事をするわけね。ほんで、神様を宿した鎌。これをね、日室町へ持ってきて、作十郎屋敷の跡に25日の昼から、26日、ほいで27日の午前中までお守りすると。ようするに、25日の晩、26日の晩、ほいで、27日の日が、お祭りの日ねん。

鎌打神事

27日の午前中に諏訪神社っていう神社がある諏訪山へ神様、ようするに鎌を、持ってあがっていくと。神事をとり行って、その神事が終わった後にタブの木に鎌を打ちつけると。ほいで、もう1つ珍しいのあるのは、「湯立て」。湯立てって鎌にお湯で沸かせて、ほんでそのお湯で目を拭くと目が良くなるちゅうそういう言い伝えもある。鎌のお祓いについては普通もりちゅうかな、あれでお祓いするわけねんけども、ススキの束ねた物を持って、湯釜につけて、皆さんにお祓いすると。そういう二重のお祓いをするわけや。まあ、鎌を木に打ちつけたら神事は終わり、ということやね。

そのあと、山を降りてきて、なおらえ。まあ、お酒飲んで、食事をする。昔はこれが楽しみやったもんや。

同じやり方で

この神事行う日とか全然変わらないです。お金儲けとか人

集めとか、そういうものがないもんで。だから日もやり方も全て昔のままにずっと貫いてきとると。そうゆうところが民俗文化財ちゅうかね。都合のいいこと言えば、日曜日がいげんけどね。

以前は

昔は獅子舞とか、神輿とかそんな祭りはしとった。ここにも獅子舞も神輿もあつたんですよ、春と秋に。それは江泊の若い衆と日室の若い衆が一緒になってほんで獅子舞したり御輿担いだりしとった。だけど最終的に残ったのがこの祭りと。まあやろうと思えば1人や2人でもできる祭りもんで。

親の意思

ある程度大人になってから、この祭はなくなつたからいかんさかい、ちゃんとずっと続けてくれよちゅうことを親に言われてんね。それが親の遺言でもあるもんで。生きとる間はしなだめや。大事にしとったもんでね。この祭を。

今後のテーマ

やっぱり子供には継いでほしいもんやね。ただ、まだその意思は聞いておらんけれども。ある程度思いはあると思うけ

ども、ここで生まれて中学校くらいのおきにもう早、向こうの町に出てしもうてね。私は40くらいまでここにおってんけども、やっぱり思いは違うげんてね。だから、祭そのものも僕の子供はあんまり経験しとらん。

やっぱり誰もおらんがなったときに、誰が果たしてこの祭を存続させるかちゅうのが、一番のテーマ、問題やね。まあ、保存会のようなものをつくってこの祭の趣旨に賛同して、じゃあ俺らが継いでやるわとゆうような状況になればまた別やけどね。今のところまだこの町からでた数人の人間がおれんけどね。

守っていきたい

昭和57年12月24日に無形民俗文化財に登録されてね。現在も登録されとる。ですから、これをずっと守っていきな、という気持ちでやっとするし、いろんな人によびかけておるといことやね。

[取材日 2013年8月6日・9月21日]

PROFILE

久保 雅博 くぼ まさひろ

昭和23年9月23日生・65歳・七尾シルバー人材センター理事長

七尾市江泊町日室出身。現在は久保さんを含め、3人で交代しながら祭を運営している。3年前に第一人者であるお父様が他界され、久保さんが保存会の事務局長として引き継いでいる。「鎌祭り」は現在残っているものも大変少ないため、これを絶やすことのないよう、取り組んでいるところである。

● 取材を終えての感想 ●

聞き書きは自分自身にとってあまり経験したことが無かったので、不安はありました。僕は人と面と向かって話し合うことが苦手で、緊張して言いたいことをうまく言葉にできなかつたり、声が小さくなってしまふことが多いので、取材相手と話す、ということに対しては特に自信がありませんでした。なので、1回目の取材はずっと緊張していました。しかし、久保さんがとても優しい方だったのでなんとか終わることができました。2回目、3回目の取材も、1度やっているということもあり、あまり緊張せずに話すことができました。

最後の取材を終えた後に、最初と比べてあまり緊張しなかった、こんな経験できて良かった、と思いました。このような経験は何度もできるわけではないので、ここで学んだことを大切に、今後役に立てるように頑張ろうと思います。

(春木悠佑 写真：左)

今回初めて聞き書き研修に参加して、貴重な体験ができたと思います。

私は、聞き書き研修をするまで、鎌打ち神事についてあまり知識がなく、上手く取材ができるか不安でした。そんな不安のなか、1回目の取材をしました。最初は緊張のあまり、何を話せばいいかわかりませんでした。しかし、久保さんは私たちの取材にも優しく答えてくださって無事、1回目の取材を終えることができました。2回目の取材では1回目とは違い、緊張することなく、取材をすることができたので良かったです。

最後に、この聞き書き研修を終え、能登には、能登に住んでいる私たちさえも知らない魅力がたくさんあることが分かりました。今回の経験は将来にもきっと役立つと思うので、ここで学んだことを大切にしていきたいと思います。

(南礼那 写真：右)

